

10 横浜市立浦舟特別支援学校 令和4年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「自他を大切にし、前向きに生きる力を育みます。」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と向き合う力 ・人とかかわる力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>○復学後を見据えて、一人ひとりに寄り添い、安心して学べるように指導と支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の病状や実態に応じた教育の充実を図ります。 ・様々な経験を通して、多様性を尊重し、人とのつながりを大切にする心を育みます。 ・保護者、医療、前籍校、関係機関との連携を深め、在籍から復学まで一貫した支援を行います。 ・GIGAスクール構想を推進し、情報活用能力を育成します。 ・センター的機能の充実を図り、病弱教育の取組について積極的に発信します。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①医療、保護者、前籍校との連携を深め、一人ひとりのニーズに応じた学習計画を立てる。 ②個に応じた学びと協働的な学びの充実を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ③アンケートの授業評価をもとに学習指導の振り返りと授業改善を行う。
担当 学習指導部	

2 児童生徒の実態

本校に在籍する児童生徒の学習の場は多岐にわたる。病院内に設置された院内学級、児童生徒の自宅や市内病院への訪問指導などの場があり、その他に、退院後も医療的必要性から前籍校に戻らず、病院に隣接する浦舟特別支援学校本校に通学するケースもある。児童生徒の疾患についても、血液疾患や様々な慢性疾患、精神医療が必要な疾患などがあり、多種多様な病態に応じた学習展開が求められる。また、児童生徒の入院期間も、1週間以内から1年間にわたるものまで様々な様相を呈している。

これに加え、児童生徒は心身への負担が重い治療を受けており、心の安定に配慮した学習活動が不可欠である。

事例にもよるが、児童生徒は入級前からの学習空白をかかえている場合が少なくなく、在籍中における学ぶ意欲の向上と学習の遅れに対する不安の解消は大きな課題のひとつである。また、退院後の前籍校復帰に際しても、困難な課題を抱えている場合が多い実態がある。

3 令和4年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組
小1 ・ 小2	<ul style="list-style-type: none"> ・事実を大まかに捉える力 ・基本的な生活習慣をつくる態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの基本的な力を身につけさせる。 ・教育活動全体を通して、人の話をよく聞き、内容を理解できるよう支援する。 ・医療と協力しながら、病状に応じた生活習慣を身につけさせる。
小3 ・ 小4	<ul style="list-style-type: none"> ・事実等を正確に理解する力 ・他者を理解する態度、自己を理解する姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や資料を読んだり調べたりして、表されている内容を正確に理解できるように支援する。 ・学習活動全体を通してコミュニケーション力の向上を図る。
小5 ・ 小6	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ・意思決定する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通して理解したことや自分で調べたことを自らの言葉で表現し、相手に伝えることができるよう支援する。 ・学習活動を通してコミュニケーション力の向上を図り、社会性を高める。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの妥当性や信頼性を吟味する力 ・夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明らかにしながら学習活動を進める中で、様々な考え方や見方に触れ、これらを吟味する力を育む。 ・学習活動上の様々な支援を受けながら、自分の進路について考え、将来に向かって取り組む態度を養う。

(全学年共通)

- ・機器活用を子どもの学力向上やQOLの改善につなげる。
- ・復学へ向け、移行教育と転出後のフォローアップを本人・保護者・前籍校に対して丁寧に行う。